

2025年4月17日



『朝礼時講話～連絡事項』

(1) 講話概略【『お年寄りのために』を基軸とした1年を】

今年度の所信表明式で読み上げた事業計画を、今一度意識づけのために読み上げたいと思います。光寿会が歩む「目的」は、『「生きる意味」を発見し合える道場にしよう』です。この初代から語り継がれてきた言葉を基軸として、理念・心得・事業計画へと繋がっています。

2025年度の法人キーワードは『お年寄りのために』です。説明文を読み上げます。

相談員、介護支援専門員、看護職員、介護職員、栄養士、調理職員、洗濯掃除職員、事務員と、沢山の職種と職員で光寿会の福祉は支えられています。福祉の意味は『社会の構成員すべてにもたらされるべき幸福』ですが、光寿会職員の幸福の源には『お年寄り』がいます。お年寄りが幸せに暮らせるように…。このシンプルでありながら実践が決して簡単ではないテーマ、『お年寄りのために』を理念とし、全職員で取り組んで参ります。

この理念実現のため、職員心得5カ条を掲げました。項目を読み上げます。

- ① その考えが、行動が『お年寄りのためになっているのか』を基本とします。
- ② 『一つ止まって』考え、判断するという『正』の意味を大切にします。
- ③ 自分が発している「音」を意識して行動します。
- ④ 相手の気持ちの傍らで『聴く』姿勢を大事に取り組みます。
- ⑤ 「結果」よりも『経験から得た財産』に目を向け、尊べる人に成ります。

この5カ条は、職員の行動規範とも言えますので、繰り返し意識づけして参りましょう。

これから各部署・各ユニットにおける目標立案をして頂きます。キーワードの『お年寄りのために』という文言が目標の文章に入っていないくても、内容自体が『お年寄りのために』になっているものであれば構いませんので、関わる皆さんでよく考えて立案して頂きたいと思います。

さらに続く事業計画。特に③と④の2つについて、現場では大事に進めて頂きたいと思います。

③ お年寄りの声に対して、より効果的に対応します。

お年寄りの声を大切にすることが法人目的に繋がります。『上司不在で決められない』ではなく、お年寄りにとって良いことであれば、その場にいる職員で判断し実行できることを実践しましょう。半面、事後報告は必須とし、見直しも忘れずに行いましょう。

④ お年寄りの意思決定・推定支援に取り組みます。

お年寄りご本人による『受容と納得をした上での意思決定』が施されているかどうか。殊に、最期の時についてのご本人による意思決定は不十分な現状があります。ご本人とご家族の声に耳を寄せながら、意思の決定・推定の支援を進めていきます。

看取り同意面談の時期には、多くのお年寄りたちがご自身の意思を伝えられず、ほとんどがご家族の判断によるものが実状です。また、医療や福祉の側の見地でご家族を誘導〔判断材料に影響を与える専門職側の考え方など〕してしまうことが、全国的にも多く見受けられます。ここで大事にしたいのは、ご家族を含めた本人以外の他人が判断・決定する前に、「ご本人だったらどう考えるか？」、「何を選択するか？」を第一に推定し考えられるよう取り組んで参りたいと思います。

今日は講話と言うよりも、この1年、光寿会が目指す姿についてお話し致しました。

(2) 連絡事項

【講話 = 理事長、①② = 生活課長】

① 今日は T.S さんが短期退居となります。16 時苑送りです。

② 今日の面会は F.K さん、S.T さん、K.I さんの 3 名です。場所は第 2 事務所となります。